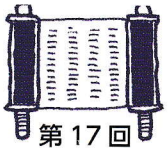


第17回

ヘブル語講座アラカルト

〔シャーヴァット〕

神が休む

神は第七日に、……なさっていたすべてのわざをやめられた。（創世記2章2節）

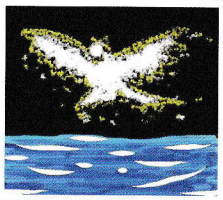
●今回は「神が休まれる」という「シャーヴァット」の話です。ヘブル語の「シャーヴァット」は「休む、安息する、やめる」を意味します。神は人のように疲れることがないお方ですが、その方が「休む」とはどういうことなのでしょうか。これは神のご計画を知ると理解できる事柄です。神は七日目を「安息日」として制定されましたが、それは神のご計画において神ご自身が休まれることを教えるためでした。この世界の基が据えられる前から、神は休むことなく働いておられます。イエシュアも「わたしの父は今に至るまで働いておられます。それでわたしも働いているのです」（ヨハネ5・17）と言われました。当時のユダヤの宗教指導者たちは、「安息日」について正しく理解していませんでした。ですからイエシュアは、しばしば彼らの言う「安息日」をあえて破っておられました（マタイ12・1、ヨハネ5・9、9・14）。彼らは、神が安息日を制定されたその意味を正しく理解することなく、「安息日」を単に守るべき規則・禁則・罰則としており、それに従わないイエシュアを罪定めしていたのです。

●神の御子イエシュアが遣わされたのは、「傷んだ葦を折ることもなく、くすぶる灯芯を消すこともない」ためです。「葦」も「灯芯」もトーラー（おしえ）の比喩です。イエシュアは本来の神のトーラーを回復するために来られましたが、ひとたび制度化された中でそれを回復することは神のみこころではありませんでした。神を表現するための器として人を新しく造り変えることによって、地にみこころを打ち立てることが神のご計画です。そのために御子は三日目に死からよみがえり、「いのちを与える御霊」（Ⅰコリント15・45）となって人を新創造してくださったのです。しかしいまだ、それは完成していません。やがて**新創造された人を通して、神のなさりたいことが御国において完成したときに、初めて神は「休まれ、安息される」のです。**それが具体的にいつなのかと言えば、キリストがこの地に再び戻って来られた後です。

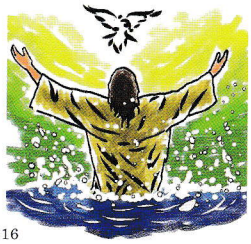
●神が「休まれる」ことは創世記2章2節に初めて記されていますが、そこには「神は第七日に、なさっていたわざを完成し、第七日に、なさっていたすべてのわざをやめられた」とあります。第七日とはやがて来たるべき「終わりの日」であり、メシア王国の到来の日なのです。そこでは人が神を完全に表現することができるため、神はすべてのわざをやめて安息されるのです。そのとき私たちも神の「安息の祝福」に入ることができるのです。（銘形秀則）

はじめに神は…

メームは「水」を表すヘブル文字です。「はじめに…神の霊が水の面を動いていた。」（創世記一章二節）とあるように、



メームは、神が翼を広げて舞い下りて来られる場所や存在を意味しています。



イエスが、水から**上がられると聖霊が鳩のように下って来ました。**

マタイ 3:16

やがて主イエスが**下って来られ、私たちを引き上げ**いつまでもともにいることになります。

Ⅰテサ 4:17

（作・神田満）

編集後記（史料・機関誌委員会から）

イースターおめでとうございます。

イエスさまは、十字架の上でなくなられました。あっけない「死」は、弟子たちや女性たちにとって絶望でした。墓に葬った弟子や女性は、悲しみに言葉を失なったことでしょう。しかしイエスさまは、三日目によみがえられました。

ハレルヤ！ありえないことが起こったのです。信じるものは、死んでも生きると私たちに希望を与えてくださいました！

今、コロナや長引く戦争、大地震。私たちは、悲しみと絶望感を味わっています。しかし、よみがえられて、今も生きておられるイエスさまがおられます。私たちに希望を与えてくださる唯一のお方を信じ、世界の平和と回復のためにお祈りしましょう！（Y・A）

発行所　宗教法人 日本神の教会連盟
東京都練馬区羽沢二―一二―九
練馬神の教会内
発行者　相原典之
編集者　沼　愼二
福岡県筑紫野市二日市北二―八―六
日本神の教会連盟　二日市栄光キリスト教会
電話＆FAX　〇九二（九二四）五〇九八